

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第50週の発生動向

全数報告の感染症 (50週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 6 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。
- 4 類感染症：つつが虫病 5 例。5 類感染症：アメーバ赤痢 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 1 例。

報告種別	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	10歳代	女	無症状病原体保有者	—
			80歳代	男	肺結核及び結核性胸膜炎	発熱、呼吸困難
			80歳代	男	肺結核	咳
		都城	90歳代	男	肺結核	むせ、左上下肢麻痺
		日南	40歳代	男	無症状病原体保有者	—
3類	腸管出血性大腸菌感染症	延岡	10歳代	男	無症状病原体保有者	O91(VT1産生)
4類	つつが虫病	宮崎市	70歳代	男	—	発熱、発疹
		高鍋	70歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
		日向	50歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹
		日向	80歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹、食欲不振
		中央	80歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
5類	アメーバ赤痢	宮崎市	50歳代	女	腸管アメーバ症	下痢、粘血便、大腸粘膜異常所見
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	30歳代	女	—	発熱

定点把握の対象となる5類感染症

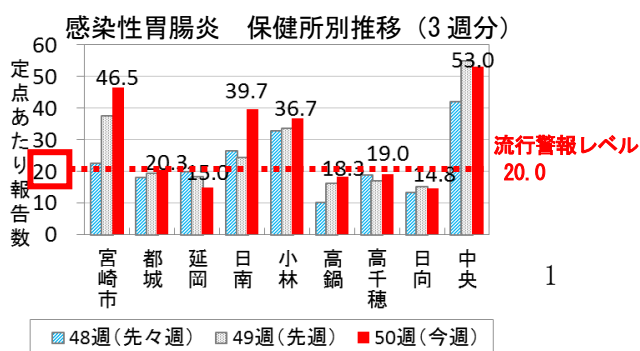
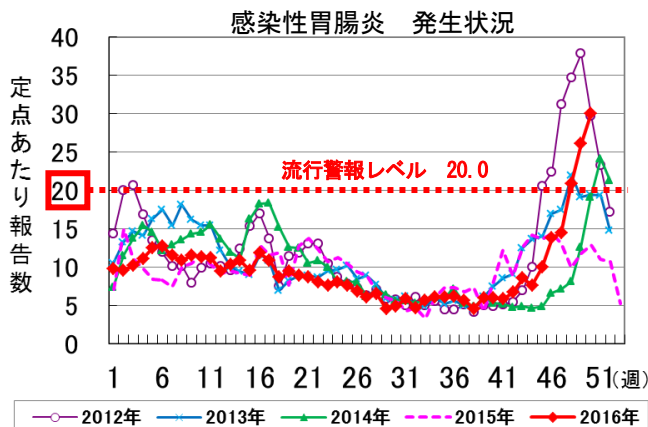
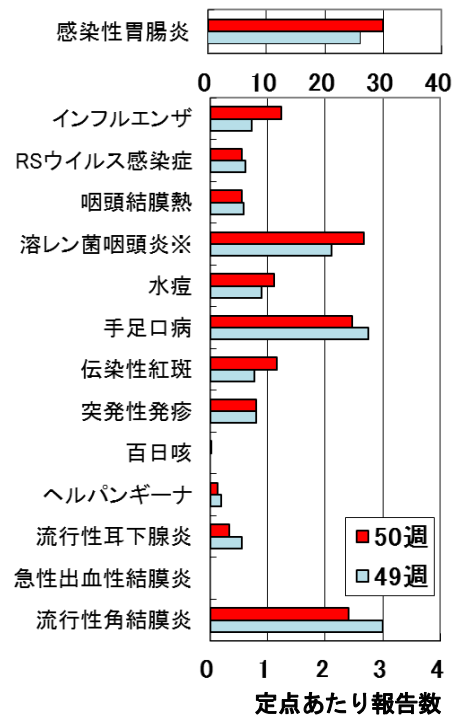
・定点医療機関からの報告総数は1,524人(定点当たり44.2)で、前週比109%と増加した。前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は手足口病と流行性耳下腺炎であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【感染性胃腸炎】

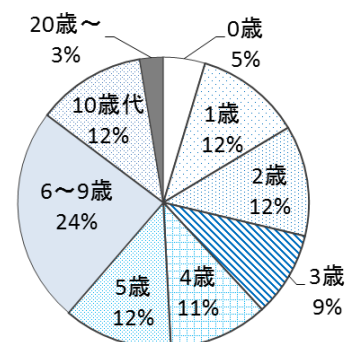
報告数は1,080人(30.0)で、前週比115%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(19.3)の約1.6倍であった。中央(53.0)、宮崎市(46.5)、日南(39.7)保健所からの報告が多く、年齢別は別グラフに示す。

《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

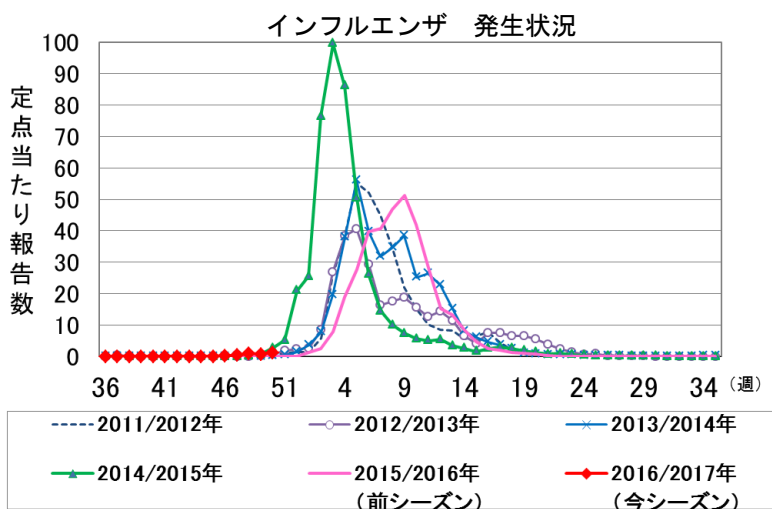
感染性胃腸炎 年齢群別割合



【インフルエンザ】

報告数は73人(1.2)で、前週比170%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.95)の約1.3倍であった。高千穂(3.0)、都城(2.1)、中央(2.0)保健所からの報告が多く、年齢別は10～14歳が全体の約3割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎:

日向(3例)、延岡(2例)保健所から報告があった。5～9歳が3例、10歳代が2例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	感染性胃腸炎(46.5)
都城	感染性胃腸炎(20.3)
延岡	伝染性紅斑(2.0)
日南	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(9.3)、感染性胃腸炎(39.7)、手足口病(5.0)、伝染性紅斑(2.0)
小林	感染性胃腸炎(36.7)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	伝染性紅斑(2.3)
中央	感染性胃腸炎(53.0)

* 流行警報レベル開始基準値*

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・手足口病(5.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成28年12月19日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
Salmonella Oranienburg (O7:m,t:-)	20歳代	女	2016.12.6	-	便	2016.12.14

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ヒトヘルペスウイルス6	0～4歳	男	2016.09.13	ヘルペス、37.0°C(9/9:39.2°C)、口内炎	咽頭ぬぐい液	2016.12.07
ヒトヘルペスウイルス6	0～4歳	女	2016.11.10	突発性発疹疑い、40.1°C、上気道炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2016.12.09
パルボウイルスB19	0～4歳	男	2016.10.11	不明の発疹症、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2016.12.08
パルボウイルスB19	5～9歳	女	2016.11.26	不明の発疹症、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2016.12.08
パルボウイルスB19	5～9歳	女	2016.12.01	不明の発疹症(りんご病疑い)、37.3°C、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2016.12.08
サイトメガロウイルス	0～4歳	女	2016.10.18	ウイルス感染症、脳室拡大(頭部画像より)	咽頭ぬぐい液 尿	2016.12.09
アデノウイルス2型	0～4歳	男	2016.11.18	集団かぜ、39.9°C、咳、鼻水	咽頭ぬぐい液	2016.12.19
インフルエンザウイルスAH3	50歳代	男	2016.11.30	インフルエンザA型、38.8°C、関節痛、咽頭炎	鼻汁	2016.12.16
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	女	2016.12.01	インフルエンザA型、39.3°C、上気道炎(咽頭炎)	咽頭ぬぐい液	2016.12.16
ノロウイルスGⅡ	5～9歳	男	2016.11.27	急性胃腸炎、39.0°C、熱性けいれん、胃腸炎(下痢)	便	2016.12.14
ノロウイルスGⅡ	5～9歳	男	2016.12.01	感染性胃腸炎、下痢(嘔気・嘔吐)	吐物	2016.12.05
エコーウイルス6型	0～4歳	女	2016.12.05	ウイルス性胃腸炎、胃腸炎(下痢)	便	2016.12.16

○胃腸炎と診断された小児2名から、ノロウイルスGⅡが検出された。ノロウイルスは、冬季に多発するウイルス性の感染性胃腸炎を引き起こす主要な病原体として知られている。ノロウイルスには5つの遺伝子群（GI～V）が存在しているが、ヒトに感染するのはGI、Ⅱ、IVである。さらに、GIは9種類、GⅡは22種類の遺伝子型に分類される。全国のノロウイルス検出状況を見ると、GⅡが大半を占めており、遺伝子型別にみると、2016年1月から3月にかけてはGⅡ.4、GⅡ.17が主流であったのに対して、2016年10月以降はGⅡ.2が主流となっているため、今後の発生動向に注意する必要がある。

○不明の発疹症と診断された幼児1名及び小児2名から、パルボウイルスB19が検出された。パルボウイルスB19に感染すると1週間程度で感冒様症状が表れ、特徴的な発疹を呈するが、発疹を呈した時点では、ウイルス血症はほぼ無くなり、周囲への感染性はほとんどない状態とされている。パルボウイルスB19に一度感染すると終生免疫が得られ、一般に再感染はない。しかし、免疫不全者においては持続感染を起こす場合がある。

🇯🇵 全国 2016 年第 49 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第49週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	343 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	16 例		
4類感染症	E型肝炎	4 例	A型肝炎	1 例	つつが虫病	38 例
	デング熱	2 例	マラリア	2 例	レジオネラ症	18 例
5類感染症	アメーバ赤痢	23 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	26 例
	急性脳炎	10 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6 例
	後天性免疫不全症候群	21 例	ジアルジア症	2 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	51 例	水痘（入院例）	4 例
	梅毒	64 例	播種性クリプトコックス症	4 例	破傷風	1 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例	風しん	1 例		

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 110%と増加した。前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。減少した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナであった。

インフルエンザの報告数は 16,404 人(3.3)で前週比 133%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.4)の約 2.3 倍であった。栃木県(10.1)、沖縄県(9.6)、岩手県(8.9)からの報告が多く、年齢別では5～9歳が全体の約3割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 61,547 人(19.5)で前週比 112%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(11.8)の約 1.6 倍であった。山形県(45.4)、宮城県(41.4)、埼玉県(30.9)からの報告が多く、年齢別では3～6歳が全体の約4割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2016年 第50週(12月12日～12月18日)

疾病名		第49週	第50週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	43	73	25	21	9	5		2	6	1	4
	定点あたり	0.73	1.24	1.56	2.10	1.29	1.00	0.00	0.33	3.00	0.17	2.00
RSウイルス 感染症	報告数	22	20	3	11	2		2			2	
	定点あたり	0.61	0.56	0.30	1.83	0.50	0.00	0.67	0.00	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	21	20	8	1	3	6		1		1	
	定点あたり	0.58	0.56	0.80	0.17	0.75	2.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	76	96	36	3	8	28		14		3	4
	定点あたり	2.11	2.67	3.60	0.50	2.00	9.33	0.00	3.50	0.00	0.75	4.00
感染性胃腸炎	報告数	937	1080	465	122	60	119	110	73	19	59	53
	定点あたり	26.03	30.00	46.50	20.33	15.00	39.67	36.67	18.25	19.00	14.75	53.00
水痘	報告数	32	40	9	3	10	7	1		2	7	1
	定点あたり	0.89	1.11	0.90	0.50	2.50	2.33	0.33	0.00	2.00	1.75	1.00
手足口病	報告数	99	89	29	11	9	15	9	12		4	
	定点あたり	2.75	2.47	2.90	1.83	2.25	5.00	3.00	3.00	0.00	1.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	28	42	12	1	8	6	4	2		9	
	定点あたり	0.78	1.17	1.20	0.17	2.00	2.00	1.33	0.50	0.00	2.25	0.00
突発性発しん	報告数	29	29	9	3	5	2	2	4		2	2
	定点あたり	0.81	0.81	0.90	0.50	1.25	0.67	0.67	1.00	0.00	0.50	2.00
百日咳	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	7	5	2		1	1				1	
	定点あたり	0.19	0.14	0.20	0.00	0.25	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	20	12	3	2	2			4		1	
	定点あたり	0.56	0.33	0.30	0.33	0.50	0.00	0.00	1.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	15	12	11	1							
	定点あたり	3.00	2.40	5.50	0.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	11	5			2					3	
	定点あたり	1.57	0.71	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	0.00		3.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:5、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～50週)

2類感染症	結核	201例(6)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	15例(1)				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	8例
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	48例(5)	デング熱	1例
	日本紅斑熱	6例	レジオネラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	14例(1)	ウイルス性肝炎	5例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	10例
	急性脳炎	10例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	6例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	8例(1)
	水痘(入院例)	3例	梅毒	9例	播種性クリプトコックス症	5例
	破傷風	2例	風しん	1例		

()内は今週届出分、再掲